

令和8年度 通信教育実施計画

松陰高等学校（本校／各学習センター）

教科		科目		単位数	履修上の留意点		
芸術		美術Ⅰ		2	必須科目		
指導目標	(1)美術の幅広い創造活動の豊かな美的体験によって、生涯にわたり美術を愛好する心情を育て、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。						
	(2)表現の活動では、主題生成の能力、創造的に構想する能力、表現しながらさらに構想を確かめ練り直す能力、材料や用具の特性を生かし創意工夫して表す技能などを育成する。						
	(3)鑑賞の活動では、美術作品や文化財等に映し出された美や創造のすばらしさ、人々の生活や願いなどを感じ取るとともに、生活を心豊かにする美術の働きや美術文化を理解したりする能力などを育成する。						
教科書				副教材等		添削指導	面接指導
新・高校生の美術Ⅰ						6回	8単位時間
多様なメディアを利用した学習による面接指導時間数の減免実施の有無			☐	実施している		多様なメディアを利用した学習による減免後の面接指導時間数	該当なし
			☐	実施していない			
添削指導（レポート）							
回	学習内容					対応する面接指導の回	提出期限
1	様々な芸術作品を鑑賞し、美術や美術文化と豊かに関わり、多視点で表現された作品の創造活動を学ぶ。					1	5月13日
2	美術や美術文化と豊かに関わり、著名な作家の作品を鑑賞し、制作に生かされた知識や探求心を探り学ぶ。					2	6月6日
3	身近なものの特徴や美しさなどを観察し、基礎的な技術を学ぶ。造形的なよさや美しさを感じ取り、表したいものの特徴や美しさなどについて考え、見方や感じ方を深める。					3.4	7月4日
4	自己の内面を探り、感じ取ったことや考えたことなどを基にした人物画を描く表現の創造活動を学ぶ。人物画を通じて、表情の機微や細かな陰影表現を学ぶ。					5.6	10月21日
5	漫画表現のよさを生かして構想を練ったり、意図に応じて工夫して表す創造活動を学ぶ。漫画表現とアニメーション表現の違いを探り、それぞれの歴史や制作の仕組みを学ぶ。					7	11月11日
6	工業製品の機能や使いやすさ、安全性、人や社会との関わり、洗練された美しさなどを感じ取る。また、それらを取り入れた工業製品を考え、デザイン・機能性を制作の中で学ぶ。					8	12月5日
面接指導(スクーリング)							
回	単位時間	学習内容				実施場所	実施日
1		鑑賞により、作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、多視点による表現効果、造形的な特徴などを基に、よさや美しさなどを全体のイメージや作風、様式を学習する。				各学習センター	5月
2		美術文化について考え、構図や表情、色彩の効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などを調べ、学習する。				各学習センター	6月
3		【実技】光源の方向を確認し、「陰（Object Shadow）」と「影（Cast Shadow）」の違いを理解する。立方体の3つの面（明・中・暗）のトーンの描き分けや接地面の描き込みによる「床に置かれている感覚」の表現を学習する。				各学習センター	7月
4		【実技】光源の方向を確認し、「陰（Object Shadow）」と「影（Cast Shadow）」の違いを理解する。立方体の3つの面（明・中・暗）のトーンの描き分けや接地面の描き込みによる「床に置かれている感覚」の表現を学習する。				各学習センター	7月
5		【実技】硬度の異なる鉛筆の特性を理解し、線の重ね方（ハッチング）や練りゴムを用いた光の描き起こしによって、豊かな明暗の階調（トーン）を作り出す技法を習得する。				各学習センター	10月
6		【実技】硬度の異なる鉛筆の特性を理解し、線の重ね方（ハッチング）や練りゴムを用いた光の描き起こしによって、豊かな明暗の階調（トーン）を作り出す技法を習得する。				各学習センター	10月
7		視覚メディアである「漫画」と「アニメーション」の構造的な違いを紐解き、それぞれのメディアが持つ表現の特質や、時間と空間の演出手法について学習する。				各学習センター	12月
8		単に美しい外見を作る「装飾」としてのデザインではなく、人々の生活を豊かにし、課題を解決するための「製品デザイン（プロダクトデザイン）」の思考プロセスと表現手法を学習する。				各学習センター	1月
多様なメディアを利用した学習							
計画段階では実施予定なし							
試験							
回数	試験範囲					実施場所	実施日
1	実技評価を試験に代わる方法として位置付ける。					各学習センター	
2	実技評価を試験に代わる方法として位置付ける。					各学習センター	
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準							
添削指導、面接指導、実技の結果を総合的に評価する。							
所定の添削課題の提出、面接指導の受講、実技評価を満たし、学習成果が認められる場合に単位を認定する。							
その他							
各学習センターでは、本校の通信教育実施計画及び指示に従い実施する。施設状況や生徒の状況等に応じて日程・実施方法を調整する場合も、本校の承認又は指示のもと、指導内容・評価・単位認定基準に変更が生じない範囲で対応する。							